

様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 6 月 18 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008 ～ 2009

課題番号：20791811

研究課題名 (和文)

自立支援に繋がる福祉用具選定および継続評価のための標準化シートの開発

研究課題名 (英文)

The welfare equipment selection which connects with the independent support and the development of the standardization sheet for the continuous assessment

研究代表者

大倉 美鶴 (OHKURA MITSURU)

福岡大学・医学部・講師

研究者番号：70364172

研究成果の概要(和文):福祉用具導入の選択基準となるアセスメントシートを作成するために、身体・認知機能の評価項目を各専門分野における学識者で検討し『試作版1』を作成した。また福祉用具の活用を継続評価する為のモニタリングシートについては、既存のものを検討・修正し『試作版2』を作成した。

更に、作成したアセスメントシート(試作版1)およびモニタリングシート(試作版2)を、専門職者に使用してもらい、使用後の意見を取り入れ再修正したものを最終版とした。

研究成果の概要(英文): To create the assessment sheet which becomes the criteria for selecting of the welfare equipment introduction, it reviewed the evaluation item of the body and recognition feature by the savant about each specialized field and it created "trial edition 1". Also, at the monitoring sheet to utilize welfare equipment in the continuous assessment, therefore, it reviewed and it corrected existing one and it created "trial edition 2".

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：在宅看護

1. 研究開始当初の背景

厚生労働省より「福祉用具選定の判断基準」(厚生労働省老健局振興課, 2004)が各都道府県に通知されて以降、要介護軽度者への福祉用具貸与が困難となり、2005年度の介護保険制度の見直しにおいて、要介護軽度者の急速な重度化が問題視されている現状が明らかになった(厚生労働省老健局振興課, 2006)。

「福祉用具選定判断基準」の問題も、要介護軽度者の急速な重度化に繋がる要因一つとして危惧される。その理由の幾つかに、身体・認知機能レベルについて6か月～1年先を推測した健康評価がなされないまま、現時点の要介護度で福祉用具の導入がなされていることや、また導入する福祉用具については、ケアプランを作成するケアマネージャーが主体で動くことは少なく、殆どが福祉用具貸与事業者任せになっている可能性が予測される(大倉美鶴, 財団法人テクノエイド協会 平成16～17年度福祉用具普及促進助成事業 介護保険等における福祉用具貸与のモニタリングに関する調査研究報告書)。

介護予防を重要視する新制度の考えに、適切な自立支援評価ができるケアマネージャーの質の向上が掲げられている。福祉用具選定の判断においても、ケアマネージャーの自立支援評価能力が大きく左右される。適切な福祉用具選定するには、適切な福祉用具を判定できるケアマネージャーのアセスメント能力と継続評価が欠かせないと推察する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、福祉用具(主に特殊寝台)を使用した自立支援の有効性や活用方法を明らかにし、福祉用具導入に必要な疾患・身

体機能・認知レベルのアセスメントや継続評価のためのモニタリングシートを開発することである。

私は今日まで、要介護高齢者(以後、要介護者とする)の福祉用具の使用に最も関係する要因(大倉美鶴, 日本在宅ケア学会誌, 2005)¹⁾ についての実態調査や、福祉用具貸与状況と身体・認知機能変化との関係についての横断的調査(大倉美鶴, 平成18年度科学研究費補助金若手研究(B) 研究実績報告書, 2006)を行ってきた。その結果、福祉用具の使用には要介護者の基本動作が関連要因として示唆されたと同時に、要介護軽度者(要支援～要介護2)と重度者(要介護3～5)については、使用目的および機能が大きく2つに分類され、身体・認知機能の状態が安定すると、使用機能が固定化される実態を見出した。現在、自立支援に向けての有効な活用法に関するガイドライン作成に向けて進行している。

これらの研究を基盤に更に進んだ調査を行う必要性を考え、第1段階(平成20年度)として、福祉用具使用状況と身体・認知機能の評価を継続して調査しながら、福祉用具導入に必要な要介護者の身体・認知機能レベルのアセスメントおよび継続評価のためのモニタリングシートの開発を行う、第2段階(平成21年度)は、開発したアセスメントおよびモニタリングシートの試用による再評価を行い、最終案を提案したい。なお、モニタリングシートについては2006年に報告(大倉美鶴, 財団法人テクノエイド協会 平成16～17年度福祉用具普及促進助成事業 介護保険等における福祉用具貸与のモニタリングに関する調査研究報告書)している福祉用具貸与のためのモニタリングシートを基準に作成する。

3. 研究の方法

(1) 研究計画・方法

研究目的を達成するためには、以下の3つの課題がある。

3つの研究課題

- ① 福祉用具導入の適切な評価につながるアセスメントシート『試作版1』の開発
- ② 福祉用具貸与の継続評価に繋がるモニタリングシート『試作版2』の開発
- ③ 開発したアセスメント・モニタリングシートの試用による完成版の作成

研究の進め方

初めに、福祉用具に関連するアセスメントおよびモニタリングの概念を明確にするために関連文献などで整理した。

次に、福祉用具に関するアセスメントやモニタリングの現状を把握するため、介護支援専門員を中心に、定期的な会議やアンケート質問紙調査を実施し、試作版1・2シートを作成する。

試作版シート1・2を福祉用具のモニタリングに関係する専門家（介護支援専門員、訪問看護師、作業療法士）らに使用してもらい、使用後の評価を聞き取り、何度か、チェック項目の内容やレイアウトを修正し、最終版の完成を目指す。

なお平成18年度に研究課題①と②を行い、H19年度に課題③に力点を置き実施する。

4. 研究成果

(1) 福祉用具導入のアセスメントに関する現状把握

専門職の聞き取り調査の結果、福祉用具選定のアセスメントやモニタリングの評価基準は各施設のオリジナル基準や担当者の能力および判断に任されており、全く統一性が見えない現状であることが理解できた。アセスメントおよびモニタリングの視点に必要な項目や順序を整理しながら、『試作版1・2』のシート開発を行った。

- ① 専門家の意見やアンケート調査から見えた課題

福祉用具選定のための判断基準の明確化が必要と考えられる。アセスメントに必要な項目として以下の5評価項目を挙げる。

《アセスメント評価項目》

- ・身体的評価項目
- ・認知機能評価項目
- ・社会活動評価項目
- ・生活環境評価項目
- ・家族・社会資源評価項目

福祉用具継続評価の判断基準については、既存のものに以下の内容を追加する必要があると考えられた。モニタリングに必要な項目として以下の評価項目を挙げる。

《モニタリング評価項目》

- ・福祉用具の利用頻度（多機能の場合は、機能別の利用頻度）
On-lineでデータ記録ができるものがあれば、履歴データ
- ・アセスメントの5項目（身体機能、認知機能、社会活動、生活環境、家族・社会資源評価項目）への効果の有無

(2) 『試作版シート1・2』のプレテスト結果

調査協力が得られた専門職ら（主に介護支援専門員）50名に試作版シートについてプレテストを実施した（回収率80%）。

不備な回答者のものを除いた36名の『試作版シート1・2』の活用状況を検討資料とした。

- ① 『試作版シート1・2』使用後の意見から見えた課題

アセスメントシートについては、身体機能評価項目に身長、体重、BMI、上肢・下肢筋量を挙げていたが、使用者の多くが（36%）その内容について未記入であった。これは、測定することが困難な対象者（寝たきり、認知機能の低下が著しい）であったことや、簡易に測定する用具がないことが理由として考えられた。

従って、実測値で評価しなくても日常の様子からADL評価できる既存の尺度（FIM）に変更した。

モニタリングシートについては、提示されている項目に何を記入すべきなのか、すぐに理解できないためか、個人の解釈で記載されていた（42%）。

(3) 最終版シート（標準化シート）の作成

成果(2)の結果から、『試作版1』・『試作版2』の評価項目で未回答が多い、或いは解釈の間違っている者が多い項目を福祉用具に精通している学識者数名で何度も検討し、再度修正したものを最終版として作成した。

実際に、アセスメントや評価項目の修正を重ねる中で、専門職らを悩ませているプ

ロセスがより明確になり、そのことを認識できたことが、今回の研究成果の中で最も有意義であったと考える。

最後に、最終版シートについて、再度プレテストを前回とは異なる専門職（主に介護支援専門員）数名に実施し、効果的な結果が得られた為、今後、より多くの様々な職種に最終版シートの活用について依頼し、標準化にむけて更に焦点化していきたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

- ① 黒田孝明、大倉美鶴、村木里志、要介護者における電動ベッド膝上げ機能の利用および浮腫軽減に関する実態調査、日本健康支援学会誌、査読有、10巻、2号、2008、pp69 - 74

〔学会発表〕（計1件）

- ① Mitsuru Ohkura, “Consideration of the factor affecting subjective burdens on at-home caretakers who use nursing-care insurance service” The7th **International Nursing Conference**(INC.2009),29 October,2009,Seoul Korea.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大倉 美鶴 (OHKURA MITSURU)
福岡大学・医学部・講師
研究者番号：70364172